

3月6日 月曜日
2017年(平成29年)

日刊みなと新聞

料 PRESS と新聞 子版

発行所
みなと山口合同新聞社
〒77-8506 下関市東和町1丁目17
☎083(266)3214 土曜・日曜・祝日休刊

本社	東京	1
支社	大阪	2
支社	名古屋	3
支社	福岡	4
支社	札幌	5
支社	仙台	6
支社	新潟	7
支社	金沢	8
支社	北陸	9
支社	中部	10
支社	近畿	11
支社	中国	12
支社	四国	13
支社	九州	14
支社	沖縄	15
支社	北海道	16
支社	東北	17
支社	関東	18
支社	中部	19
支社	近畿	20
支社	中国	21
支社	四国	22
支社	九州	23
支社	沖縄	24
支社	北海道	25
支社	東北	26
支社	関東	27
支社	中部	28
支社	近畿	29
支社	中国	30
支社	四国	31
支社	九州	32
支社	沖縄	33
支社	北海道	34
支社	東北	35
支社	関東	36
支社	中部	37
支社	近畿	38
支社	中国	39
支社	四国	40
支社	九州	41
支社	沖縄	42
支社	北海道	43
支社	東北	44
支社	関東	45
支社	中部	46
支社	近畿	47
支社	中国	48
支社	四国	49
支社	九州	50
支社	沖縄	51
支社	北海道	52
支社	東北	53
支社	関東	54
支社	中部	55
支社	近畿	56
支社	中国	57
支社	四国	58
支社	九州	59
支社	沖縄	60
支社	北海道	61
支社	東北	62
支社	関東	63
支社	中部	64
支社	近畿	65
支社	中国	66
支社	四国	67
支社	九州	68
支社	沖縄	69
支社	北海道	70
支社	東北	71
支社	関東	72
支社	中部	73
支社	近畿	74
支社	中国	75
支社	四国	76
支社	九州	77
支社	沖縄	78
支社	北海道	79
支社	東北	80
支社	関東	81
支社	中部	82
支社	近畿	83
支社	中国	84
支社	四国	85
支社	九州	86
支社	沖縄	87
支社	北海道	88
支社	東北	89
支社	関東	90
支社	中部	91
支社	近畿	92
支社	中国	93
支社	四国	94
支社	九州	95
支社	沖縄	96
支社	北海道	97
支社	東北	98
支社	関東	99
支社	中部	100



沖縄県水産海洋技術センター内で開発中のモズク株(2月24日)

沖縄県水産海洋技術センター

モズク交雑技術確立へ

悪天候強い品種誕生に期待

【沖縄】沖縄県水産海洋技術センター(沖縄県糸満市)は、オキナワモズクの養殖技術と交雑技術を開発し、県内モズク生産の底上げと安定化を図る「オキナワモズクの生産底上げ技術開発事業」を2017年度から3カ年で行う予定。同センターが新品種育成につながる交雑技術を確立する。関係者は海水温の変化や悪天候に強く生産性に優れたモズク品種が誕生することに期待を寄せる。

沖縄県は国内最大のモズク産地で国内モズクの約3700トンを生産している。9割超を生産する。ただ、ブームで消費者のモズク需要は目撃割れが多く、16年が増加。加工メーカーはオキナワモズク生産量、原料不足に頭を抱えるなど、安定生産が求められている。

同センター海洋資源・養殖班の岩井憲司主任研究員は、モズク不作の要因を「近年の海洋環境の変化や沖縄特有の天候現象が起因」と指摘。「冬

季海水温の思わぬ変化がモズクの『芽だし』を阻害している。春から初夏のモズク完熟時期に発生する低気圧や台風は成長を妨げ、モズクを流してしまふ」と説明する。その対策として「天候変化に強い新品種の開発が必要。同事業で交雑技術を確立する」と強調する。

同事業では期間中、委託した業者が測定機器を使い周辺漁場の環境データをなどを継続的にモニタリングする。集めたデータを基に同センターは漁場状況の検証と安定生産につながる養殖技術開発を行う予定。

モズク関係者は「これまで品種改良で生産性や食味に優れた品種が既に開発されている。沖縄の養殖モズクは歴史が浅くほとんどの生産量が天然種苗を使っている。安定生産に向けた新品種開発に期待している」と話す。